

1000. Ring Lattice / 公理系及^レ表現論

小笠原 藤次郎(濱島大理文)

vector lattice / 表現論⁽¹⁾ヨリシテ ring lattice / 公理系及^レ表現ニツイテ論ズ。如何ナル vector lattice \mathcal{L} meet 及^レ join τ 無制限ニ保存シテ complete vector lattice = 埋藏ナレル。⁽²⁾ 是レヨリ complete vector lattice = 於テ成立スル事實ハ Archimedean case = 於テ必要ニ修正ヲ加ヘテ成立スベシトイフ考ヘ方ニヨツテ次ノ様ニ論ジタ。§1 デ ring lattice / 定義ヲ興ヘタ後各要素ガ單位ニツイテ有界ナ可換環ニツイテ同知ノ表現論ヲ §2 デ有限次元ノ ring lattice = 於テ

(1) 前田文友, 小笠原藤次郎, vector lattice / 表現。以後コノ論文ヲ“表現論”ト呼ブ。

(2) 小笠原藤次郎, Boole 空間ニツイテ。

(3) 次頁へ。

"Archimedean" の条件 / 非在 / 条件下 数等 + ルコ
トヲ §3 デハ §1 中 / 条件可換ハ余命ナルコトヲ §4 デハコ
レヲ一般 / ring lattice デ証明シタ。

§1. 定義 環単位 e , 実数ヨリナル作用圏ヲモツ環 R
が次 / 条件ヲ満足スルトキ ring lattice トイフ。

- (1) R ハ vector lattice デアル。
- (2) Archimedean / 公理ヲ満足スル。
- (3) e ハ vector lattice トシテ / 単位デアル。
- (4) $x > 0, y > 0, x, y \in R$ / トキ $xy \geq 0$

(1), (2) ヨリ "表現論" = ヨリ normal ideal / 全体 N /
表現 Boole 空間 Ω 上 / 連続函数 = ヨツテ R ヲ vector
lattice トシテ linear-lattice-isomorphic + 表現が
得ラレル。 x = 対応スル函数ハ $f_x(\beta^*)$ デ表ス。コノ § デハ
 R / 各要素が e = 関シテ 有界 + 可換環 / 場合 / ミヲ考へル。自
明ナルモノ / 証明ハ略スル。

補助定理 1. $x > 0, y > 0, x \wedge y = 0$ / トキ $xy = 0$

補助定理 2. $a > 0$ / トキ $(ax)_+ = ax_+, (ax)_- = ax_-$

(証) $ax = ax_+ - ax_-$, $ax_+ \wedge ax_- = 0$ ヨリ

$$(ax)_+ = ax_+, (ax)_- = ax_-$$

補助定理 3. $x^2 = |x|^2$

(3) ハ 次頁 / 脚註

(3) R が実数体上有限 / order ヲモツ換言スレバ有限個

linear basis ヲモツ意。

(4) 各 $x \in R = |x| < \alpha e + \beta \pi$ 數 α, β / 存在スル意。

定理1. 各要素が $e = 1$ 有界 + 可換 + ring lattice R の単独的 = 定まる *bicomact Hausdorff* 空間 / 稠密 + 連続函数族 / 環 = ヨリ *ring-lattice-isomorphic* = 表現される。

(証) $f_{xy}(p^*) = f_x(p^*) f_y(p^*)$ を証スレバ他 / 部分 / 証明の "表現論" 及び "Zerlegungsraum" を作ルコト = ヨリ自明。

コノタメニハ $f_{x^2}(p^*) = \{f_x(p^*)\}^2$ を証スレバ可。何者 x / 代リ = $x+y$ と置イテ両辺ヲ比較スレバヨイ。補助定理3 = ヨリ $x > 0$ / トキ証スレバ可。"表現論" / 記法デ $x > 0$ / トキ任意 / 正数 $\lambda = \lambda$ ツイテ $\alpha_\lambda^{(x)} = \alpha_{\lambda^2}^{(x^2)}$ 換言スレバ $(x - \lambda e)_- \sim (x^2 - \lambda^2 e)_-$ ナルコトヲ証スレバ可ナリ。然ルニ補助定理2 = ヨリ $\lambda(x - \lambda e)_- \leq (x^2 - \lambda^2 e)_- \leq \alpha(x - \lambda e)_-$ ナル正数 α が存在スル。

従ツテ定理1ノ証明サレタコト = ナル。

(2) / 假定ノタイトキハ $e = 1$ 有界 + 無限小 / 全体⁽¹⁾ノ *ideal* 且ツ *normal subspace* トナル。従ツテソレ = 閉スル剰余環が定理1ノ假定ヲ満スコト = ナルカラ無限小 / 全体ノ *radical* トモ考ヘラレル。有限次元ノトキハ丁度 *radical* ト一致スル。

定理2. 単位 $e = 1$ 有界 + 各要素が有界 + *Archimedean vector lattice* L ノ必要 / 場合 L / 拡大 = ヨリ E

(1) 任意 / 正数 $\alpha = \alpha$ ツイテ $|x| \leq \alpha e$ が成立スル x / 全体。

"表現論" §1 参照。

環單位トスル ring lattice = スルコトが可能デアル。且ツ積ハ \mathbb{L} 上デハ单独的 = 定ムル。⁽²⁾

§2. 茲デハ有限次元ノ R ノミニツイテ考ヘル。Archimedean, 公理ヲ代数的性質ニヨツテ究ムルタメコノ公理ハコノデハ假定セズニオク。 e = 關シテ有界ト要素ノ全体ヲ R 中トスレバコレヲ ring lattice デアル。

補助定理1. R 中 radical ハ e = 關スル無限小ノ全体ト一致スル。

(証) x が e = 關スル無限小ノトキ x ハ零元ナルコト及ビソノ逆が容易ニ示サレル。コレカラ補助定理1ノ成立ガワカル。

定理1. R 中ニ於テ "Archimedean" ト "半單純" ハ對等ノ條件デアル。

補助定理2. R 中 Archimedean, 公理ヲ満足スルトキ $R = R_e$ 。

(証) R 中実數全体ノ作ル ring lattice, 有限個ノ direct union トナルコトが知らレテキル。 e ヲ primitive idempotent $e_i, i = 1, 2, \dots, n$ = 分解スル。 R 中 Archimedean デトイフスレバ $x, y > 0$ が存在シテ任意ノ正數 α = ツイテ $x \geq \alpha y$ が成立スル。 $y \wedge e_i > 0$ ヲ満足スル i ヲトレバ $y \wedge e_i = \lambda e_i$ ノ形ニカスレル。コレカラ上ノ x, y ノ代リニ $x \geq \alpha e_i, x e_i = x$ トシテ差支ヘナイ。コレヨリ $x^2 \geq \alpha x, \dots$ トナリコノ無限大的性質が矛盾

(1) §3 定理1 参照

ヲ起スコトヲ示セバヨシ。 R が Archimedean, トキハ $R = R_e$ が容易ニ分ル。

定理 2. R が Archimedean, 公理ヲ満足スルタメノ
条件ハ \square 零元, 非在 (或ハ $x > 0$, トキ $x^2 > 0$) デアル。

(証) 補助定理 1, 2 ヨリ

定理 3. 可換 R デハ Archimedean, 公理ハ半單純ノ
条件ト對等デアル。

(証) 補助定理 1 及び 2 ヨリ

有限次元デナイ R デハ此ノ定理ハ成立セズ。スベラノ実
係数ノ \square 級数ヲ辞書的ニ順序ツケ Cauchy 積ヲ積ノ定義ト
シテ導入スルコトニヨリ例示サレル。

§ 3. 定理 1 各要素ガ e -關シテ有限 $+$ ring lattice
ハ可換デアル。

(証) vector lattice トレテ R 7 complete
vector lattice = 埋藏シ後者 = R , 積ノ定義ヲ拡大
スルコトガ可能。コレヨリ本定理ヲ complete $+$ R デ証明
スレバ充分。"表現論", 記法ヲ $e(a)e(b) = e(b)e(a)$
ヲ証明スレバ充分デアル。何者任意ノ a ハ $e(a)$, 一次的結
合ニヨリ e -關シニ様ニ近似スルコトガ出来るカラ。

$e(a)e(b) \leq e(a) \wedge e(b)$ ヨリ $fe(a)e(b)(f^*) \leq$
 $fe(a)(f^*)fe(b)(f^*)$ ガ成立スル。 b , 代リ = b' ト
置イテ式ト逐々相加ヘテ左右両辺トモ $fe(a)(f^*)$ 7 得ル。

コレカラ上ノ不等式ヲハ等号ガ常ニ成立スルコトヲ知ル。

$e(a), e(b)$, 順序ヲ変更シテ $fe(a)e(b)(f^*) =$

$f \in e(\mathfrak{a})e(\mathfrak{a})(\mathfrak{f}^*)$. これより $e(\mathfrak{a})e(\mathfrak{b}) = e(\mathfrak{b})e(\mathfrak{a})$.

環単位が lattice 単位ト + + + イトキ一般 = 可換ヲ +
1. 非可換有限群ヨリ 乗係数, group-ring ヲ作り 順序ヲ適當ニ定ムルコト = 依テ余ル。

§4. §3ノ定理1ヲ一般ノ Ring lattice ヲ証明スルキニ若干ノ補助定理カラ始メル。

補助定理1. $a > 0$, 且ツ $e =$ 關シテ有界ノトキ

$$(ax)_+ = ax_+, (ax)_- = ax_-$$

補助定理2. $x > 0$ ノトキ $x = \bigvee_n (x \wedge ne)$

補助定理3. $x > 0$ ヲ $e =$ 關シテ有界, 任意ノ $y > 0$
ニ對シテ $y_n = x \wedge ne$ ト置クトキ $xy = \bigvee x \wedge y_n$

補助定理4. $x > 0, y > 0$ ノトキ $xy = 0$ トキ
 $x \wedge y = 0$

(証) $x_m = x \wedge me, y_n = y \wedge ne$ トスレバ

$x_m y_n = 0$ §1 定理1, 及ビ §3 定理1, “表現論”ヨリ $x_m \wedge y_n = 0$. 補助定理2ヲ使フテ $x \wedge y = 0$.

補助定理5. $x > 0$ ガ有界ノトキ任意ノ $y > 0 =$ ツイ
テ $x \wedge y = 0$ ノトキ $xy = 0$ ガ成立スル。

(証) 補助定理3ヨリ。

補助定理6. $x > 0, y_n \downarrow 0$ ノトキ $xy_n \downarrow 0$

(証) 任意ノ自然数 $m =$ 對シテ $x_m = x \wedge me$,
 $x'_m = x - x_m$ ト置ク。 $f_{\mathfrak{a}}(\mathfrak{f}^*) \langle m \rangle$ ノトキ normal
ideal \mathfrak{a} ガ存在スレバ $\mathfrak{a} \in \mathfrak{f}^*$ ノトキ $f_{\mathfrak{a}}(\mathfrak{f}^*) \langle m \rangle$. 然
ルニ $f_{x'_m}(\mathfrak{f}^*) = 0$. “表現論”ニヨリ任意ノ正数 $\lambda =$ 對

$\lambda \alpha \wedge \alpha ((x'_m - \lambda e)_+) = 0$. $e = \text{閉}$ して有界 α の任意の正要素 u をとる. $u \wedge (x'_m - \lambda e)_+ = 0 = (u x'_m - \lambda u)_+$
 (補助定理 1, 5) 従って $u x'_m \leq \lambda u$. 然る $\lambda = 1$ の任意の正数 λ であるから $u x'_m = 0$. 故に $u(x'_m y_n - \lambda e)_+ = (u x'_m y_n - \lambda u)_+ = (-\lambda u)_+ = 0$ (補助定理 1). 従って $u \wedge (x'_m y_n - \lambda e)_+ = 0$ (補助定理 4).

これから $\alpha \wedge \alpha ((x'_m y_n - \lambda e)_+) = 0$ 即ち $\beta^* \in \alpha$, トキ $f_{x'_m y_n}(\beta^*) = 0$. 故に $f_{x y_n}(\beta^*) = f_{x_n y_n}(\beta^*)$.
 $x'_m \wedge e = \text{閉}$ して有界であるから $x'_m y_n \downarrow 0$ ($n \rightarrow +\infty$).
 従って第一種集合を除いて $\lim_{n \rightarrow \infty} f_{x y_n}(\beta^*) = 0$
 故に $x y_n \downarrow 0$ が成立する.

定理 1. R の可換である.

(証) $x > 0, y > 0$, トキ積, 可換を証すべし. 先づ x が $e = \text{閉}$ して有界, トキ $y_n = y \wedge n e$ と置いと
 $x y = \vee x y_n = \vee y_n x = y x$ (3.3, 定理)
 x が有界 $\neq +1$ トキ $\wedge (x y - x y_n) = \wedge x (y - y_n) = 0$
 (補助定理 6) より $x y = \vee x y_n$ を得る.

上と同様, 論法で $x y = y x$ を証し得る.

補助定理 7. 第一種集合を除いて

$$f_{x y}(\beta^*) = f_x(\beta^*) f_y(\beta^*).$$

(証) $x > 0, y > 0$, トキ証すべし. x が有界, トキ $y_n = y \wedge n e$ と置いと第一種集合を除いて次の等式が成立する. $f_{x y}(\beta^*) = \lim_{n \rightarrow \infty} f_{x y_n}(\beta^*) = f_x(\beta^*) \lim_{n \rightarrow \infty} f_{y_n}(\beta^*) = f_x(\beta^*) f_y(\beta^*)$. x が有界 $\neq +1$ トキ定理 1, 証明ト

同論法 = 有ル。コレヨリ次ノ定理ガ成立スル。

定理 2. *ring lattice* R ハ 單次的 = 定マシ *bicom-*
compact Hausdorff 空間ノ連続函数族 (第一種集合ノ上
ヲ除イテ有限ヲトル)ノ *ring lattice* = 有ル *ring-*
lattice-isomorphic = 表現サレル。

定理 3. § 1ノ定理 2ヲ " e = 閉レテ有限 "ノ條件
ヲトツタモ。

(注意) 積ノ定義 = ハ *Riesz*ノ方法ガ有ル。

(注意) 表現論カラ *ring lattice*ノ種々ノ基礎的性質
ヲ導クコトガ出来ル。

(お断り) 本稿ヲ終ツテ中野氏が學士院記事 17(1941) 311
- 317ヲ σ -complete *ring lattice*ガ可換ナルコト
ヲ述べラレタキルノ一氣ガツイタ。